

# FURUYA REPORT

## 2021

第53期 事業のご報告  
2020.7.1~2021.6.30

### 株主の皆様へ

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第53期(2020年7月1日から2021年6月30日まで)の業績につきましてご報告いたします。

株主の皆様には引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長  
たかひと  
古屋 堯民

## イリジウム・ルテニウムの スペシャリストとして 持続型社会と環境に貢献しながら 着実に成長してまいります。

**Q** 2021年6月期(第53期)の業績についての分析をお願いします。

**A** 新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、  
各事業とも独自の技術で需要に応え、堅調な実績を上げることができました。

53期は在宅勤務やWEB会議等の増加により、特に情報通信・半導体を中心としたエレクトロニクス市場の需要増を背景に、売上・利益ともに堅調に推移しました。

セグメント別の業績としては、電子はスマートフォンのノイズフィルター基板で使用されるリチウムタンタレート結晶用のイリジウムルツボが、5Gサービス開始によるスマートフォン買替需要によって受注増となり、増収増益となりました。

薄膜は通信データ量の増加を背景にデータセンターの設備投資が続いたことから、HDD用のルテニウムターゲットの受注が堅調に

推移しました。

センサーは半導体市場の活況を受けて生産量が大幅に伸びたことに加え、高付加価値製品の出荷も増えたことから、増収増益となりました。

ケミカルは設備投資が完了し生産能力の増強を図ることが出来ました。有機EL向け化合物や電極向け化合物が好調に推移したことに加え、回収精製と化学プラント向け触媒の受注も寄与し増収増益となりました。

配当につきましては普通配当120円、創業70周年記念配当30円を合わせて150円といたしました。

### 業績ハイライト

(百万円)	連結業績			2022年6月期の業績予想	
	前期	当期	前期比	通期	前期比
売上高	22,826	<b>33,840</b>	48.3%増	42,300	25.0%増
営業利益	3,679	<b>10,452</b>	184.1%増	11,800	12.9%増
経常利益	3,756	<b>10,557</b>	181.0%増	11,600	9.9%増
親会社株主に帰属する当期純利益	2,534	<b>6,889</b>	171.9%増	7,800	13.2%増
1株当たり当期純利益(円)	435.27	<b>1,026.73</b>	135.9%増	1,162.41	13.2%増

**Q** 2022年6月期(第54期)の業績予測と取り組みを教えてください。

**A** 需要に着実に応えていくことで、増収増益を目指してまいります。

変異株により新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されるものの、情報通信・半導体を中心とするエレクトロニクス市場の好調を背景とした需要へ着実に応え、環境問題の課題解決にも対応し増収増益を目指してまいります。

具体的な状況や取り組みですが、電子は引き続きリチウム tantalum 結晶用のイリジウムルツボが堅調に推移すると考えております。加えて医療機器用の結晶製造に使用されるイリジウムルツボも順調な受注を見込んでおります。また高温高効率ガラス溶解装置は開発を継続してまいります。

薄膜はデータセンター向け投資拡大を背景にしたルテニウムターゲットの需要が54期も堅調に推移すると予測しています。また当社の高純度精製の強みを活かした次世代半導体(STT-RAM)向けターゲットの量産体制構築も完了しました。

センサーは54期から事業名称を「サーマル」に変更して、より広範に熱効率向上及び温度管理関連製品等を開発し、市場へ

投入していきます。温度センサーはより高付加価値な製品へのシフトを続けてまいります。

ケミカルは回収精製に関する設備投資が順次完成しており、精製能力の向上とリサイクル工程の効率化を進めリサイクル事業を強化いたします。また、FT-eco触媒は市場開拓に引き続き注力し、従来の白金以外の貴金属を使った製品ラインアップの充実に取り組んでまいります。加えて有機EL 燐光材向け一次材料のイリジウム化合物は世界トップシェアを維持しテレビ等への利用拡大で堅調な推移を見込んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響による物流の停滞により原材料の調達に懸念されていましたが、当社はリサイクル(回収精製)を、事業の五本目の柱として強化に取り組んでおり、イリジウム・ルテニウムのリーディングカンパニーとして、しっかりと供給責任を果たしてまいります。



**Q** 注力分野など、今後のフルヤ金属についてお聞かせください。

**A** イリジウム・ルテニウムに精通した環境貢献企業としての責任を果たしながら、オンリーワン製品と技術で着実な成長を目指してまいります。

当社は国内外の貴金属製品メーカーの中で唯一、創業当時からイリジウム・ルテニウムに着目し、そのスペシャリストとしてイリジウム・ルテニウム需要を創出してきました。現在はさまざまな分野でイリジウム・ルテニウムが使われるようになり、特に環境分野では触媒や電極などに使われる欠かせない存在になっています。

そうした環境分野に貢献する製品・技術として当社が注力しているのが、電極表面にイリジウムを使用した水電解技術による水素の製造です。当社が目指すのは太陽光発電や風力発電でつくられた自然エネルギーを利用し、イリジウムを使用した電極で水を水素に変え、貯蔵・運搬するものです。天然ガスから水素をつくる従来の方法は実は多くのCO<sub>2</sub>を排出しますが、この方法ではほとんどCO<sub>2</sub>を排出せず、「クリーン水素」と呼ばれています。他にも燃料電池自動車の水素ステーションに使われるイ

リジウムやアンモニア生成触媒に使われるルテニウムなど、イリジウム・ルテニウムを用いた当社の技術は、SDGsの気候変動や飢餓撲滅へ貢献が期待されています。

当社の技術と製品はそのほとんどが、環境改善や持続可能社会の実現に寄与しています。その役割を直接的に担うリサイクルや水素、アンモニアのみならず、食品廃棄の削減に貢献するFT-eco触媒や希少貴金属の使用量削減に繋がるナノ合金技術は、進化を続けます。

第54期は売上高42,300百万円、経常利益11,600百万円を目指してまいります。なお、配当につきましては150円を予定しております。環境や持続型社会に寄与する企業として今後もオンリーワン製品と技術に磨きをかけ、その責任をしっかりと果たしてまいります。

# SPECIAL ISSUE

## 市場と環境のニーズに応える体制の構築

### 土浦工場・つくば工場の設備投資で需要増に対応

当社の技術と製品はそのほとんどが環境改善や持続可能社会の実現に寄与しています。こうしたESGやSDGsの観点に加え、当社がサプライチェーンにおいて不可欠な存在であることから、安定供給を目指して土浦工場・つくば工場に前期は3つの設備投資を行い、またリサイクル事業の更なる強化のために土浦工場のリサイクル設備の充実を図っています。

その一つ目が土浦工場におけるルテニウム回収精製設備と貴金属のリサイクル工程の自動化推進です。ルテニウム回収精製設備では月産3.5t体制を確立し、ルテニウムの鉱山における年間産出量を当社で精製が可能になります。またリサイクル工程の一部自動化によりリサイクル能力増強に併せて作業負荷の軽減も実現しています。

二つ目は土浦工場の化学プラント向け触媒製造設備で、能力を倍増しました。三つ目はつくば工場のターゲット量産設備及び工場

建屋増築の設備投資を行いました。これにより、在宅勤務等によるデータセンター容量の拡大に伴うHD用ターゲットの需要増などに応えるとともに、専用ラインを設けて半導体向けターゲットへの取り組みを開始します。

そして現在はイリジウム・ルテニウム回収精製設備の投資を進め、いわゆる低濃度品からの回収精製の自動化も含めて整備しており、2022年12月に完了する予定です。

これまでは、イリジウム・ルテニウムを低濃度で使用した製品のほとんどが放置されていましたが、当社は環境素材として将来的な需要が高まることを予測し、低濃度の廃棄物などからリサイクルする技術確立を急いできました。フルヤ金属はリサイクルを通じて循環型経済を進展させ、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」の達成に貢献してまいります。

### サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金に採択

昨年5月に経済産業省が公募した「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」に当社のリサイクル事業が採択されました。これは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、サプライチェーンの脆弱性が顕在化したことから、サプライチェーンの強靭化を図る投資を支援する補助金です。

当社は約20年前から当社のお客さまを対象にしたイリジウム・ルテニウムのリサイクルを行ってきましたが、その先のお客さまや一般の方が使う最終製品からのリサイクルが近い将来では必要になると考え、2014年頃から低濃度品のリサイクルにも取り組んできました。今回採択された事業は、これまでの取り組みを強化しながら、低濃

度品から濃縮したイリジウム・ルテニウムを分離して貴金属の精製ラインに投入できる原料にするためのライン構築です。

鉱山からのイリジウム・ルテニウムはプラチナの副産物としてしか産出されず、希少な金属資源です。そのため増産が難しいイリジウム・ルテニウムですが、グリーン（環境）、デバイス（半導体等）の領域で利用が有望視されており、貴重な資源の一つとして、資源が循環するメカニズムを構築することが重要視されています。

当社には世界一のシェアと豊富な販売先を有するイリジウム・ルテニウムのトップカンパニーとして、そのサプライチェーンの強化を進めてまいります。

## TOPICS

### FT-eco触媒を購入型クラウドファンディング「マクアケ」で販売

多くの触媒は高温環境でなければ効果を発揮できませんが、当社のFT-eco触媒は常温で鮮度維持、抗菌・防カビ、防臭の効果を発揮します。既にさまざまな分野の製品に採用され始めていますが、機能とともに利用シーン（用途）をどう伝えていくのかがマーケティング上の課題でした。

こうした課題を踏まえて今回、購入型のクラウドファンディング「マクアケ」で、2021年1月29日から3月28日まで当社が開発した「FT-eco Ball（仮称）」の一般消費者に向けたテスト販売を実施しました。これはFT-eco触媒の機能を活かした商品で、冷蔵庫の野菜や果物の鮮度維持、抗菌・防カビ、防臭に効果を発揮します。約2カ月の販売期間で24,220のページビューがあり、651個を販売しました。予想を超える反響を受け、テスト販売終了後の現在もマクアケストアで販売を継続しています。多くの企業からの問い合わせを頂戴し、利用シーンを伝えるという狙いも達成でき、

これを契機にBtoBでの利用を広げてまいります。

また、今年6月に、上海に中国、東南アジアのマーケティング・販売を担う100%出資現地法人（Furuya Eco-Front Technology (Shanghai) Co., Ltd.）を設立し、鮮度維持の分野で市場にアプローチしていますが、その現地活動から新たなニーズをキャッチしています。中国の都市部ではゴミの分別処理が始まり生ごみの臭いが都市問題になっていますので、この分野でもFT-eco触媒を展開してまいります。

FT-eco触媒と株式会社Furuya Eco-Front Technologyについて

<https://www.furuyaecofro.com>

マクアケストアのFT-eco触媒商品ページ

<https://www.makuake.com/project/ft-eco/>



市場ニーズに応える  
各種設備が増強された  
土浦工場



社会的な  
需要の高まりも背景に、  
ターゲット量産体制等を  
整えたつば工場



リサイクルを実現する回収精製設備



「マクアケ」の様子



FT-eco Ball (カラー:白)



## 連結財務諸表

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2020年6月30日現在	2021年6月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	20,886	42,054
固定資産	10,946	13,635
有形固定資産	10,077	12,062
無形固定資産	46	215
投資その他の資産	822	1,357
資産合計	31,833	55,690
<b>負債の部</b>		
流動負債	6,860	20,447
固定負債	10,543	6,745
負債合計	17,404	27,192
<b>純資産の部</b>		
株主資本	14,351	28,236
資本金	5,445	5,445
資本剰余金	5,414	7,030
利益剰余金	10,741	17,172
自己株式	△7,249	△1,412
その他の包括利益累計額	△13	△9
新株予約権	92	92
非支配株主持分	—	179
純資産合計	14,429	28,497
負債・純資産合計	31,833	55,690

## 連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2019年7月1日から 2020年6月30日まで	2020年7月1日から 2021年6月30日まで
売上高	22,826	33,840
売上原価	16,755	20,152
売上総利益	6,070	13,688
販売費及び一般管理費	2,391	3,236
営業利益	3,679	10,452
営業外収益	150	175
営業外費用	73	69
経常利益	3,756	10,557
特別損失	—	8
税金等調整前当期純利益	3,756	10,548
法人税、住民税及び事業税	1,167	4,162
法人税等調整額	54	△481
親会社株主に帰属する当期純利益	2,534	6,889

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2019年7月1日から 2020年6月30日まで	2020年7月1日から 2021年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	664	△3,450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△987	△2,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	623	7,682
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	89
現金及び現金同等物の増減額	302	2,212
現金及び現金同等物の期首残高	1,748	2,050
現金及び現金同等物の期末残高	2,050	4,262

(注) 連結財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てています。

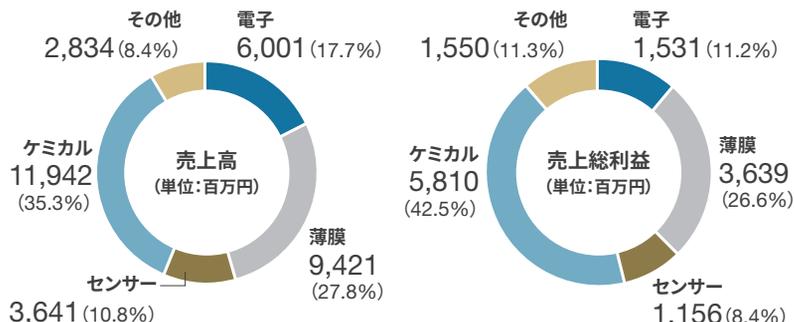
# 事業の概況

セグメント別売上高(当期)

合計 **33,840** 百万円

セグメント別売上総利益(当期)

合計 **13,688** 百万円



電子

ルツボ／  
ガラス向け溶解装置

スマートフォンの需要拡大によるSAWフィルター向け、並びに医療関連で使用されるシンチレーター向け単結晶育成用イリジウムルツボの受注が堅調に推移していることに加え、一部貴金属価格の想定を上回る上昇と先々の需給逼迫懸念から前倒し手当の動きもあって、売上高6,001百万円(前年同期比47.3%増)、売上総利益1,531百万円(前年同期比68.5%増)となりました。

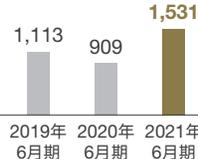
■ 売上高(百万円)

**6,001** 百万円



■ 売上総利益(百万円)

**1,531** 百万円



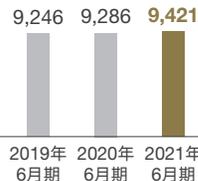
薄膜

ターゲット材

製造工程の変更に伴うタッチパネル配線向け銀合金ターゲットの受注が減少したものの、5G通信や在宅勤務の増加によるデータセンター向け投資拡大を背景として、HD向けルテニウムターゲットの受注が堅調に推移し、売上高9,421百万円(前年同期比1.5%増)、売上総利益3,639百万円(前年同期比36.5%増)となりました。

■ 売上高(百万円)

**9,421** 百万円



■ 売上総利益(百万円)

**3,639** 百万円



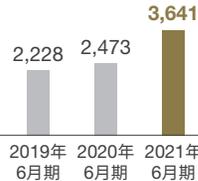
センサー

温度センサー

半導体市場の活況を受け、半導体製造装置メーカー、海外半導体メーカーからの受注が引き続き好調であり、センサー生産量の大幅な伸びに加え、高付加価値製品の割合増加が寄与し、売上高3,641百万円(前年同期比47.3%増)、売上総利益1,156百万円(前年同期比25.5%増)となりました。

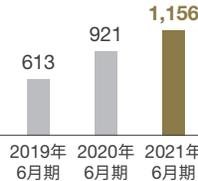
■ 売上高(百万円)

**3,641** 百万円



■ 売上総利益(百万円)

**1,156** 百万円



ケミカル

貴金属化合物／化学触媒  
精製・回収

昨年実施した設備投資の設備稼働に伴い、精製・回収(リサイクル)の受注が好調に推移し、化学プラント向け触媒の受注も回復しました。有機EL向け化合物、電極向け貴金属化合物の受注が引き続き好調に推移していることに加え、一部貴金属価格の想定を上回る上昇と先々の需給逼迫懸念から貴金属原材料の前倒し手当の動きも見られ、売上高11,942百万円(前年同期比73.6%増)、売上総利益5,810百万円(前年同期比275.7%増)となりました。

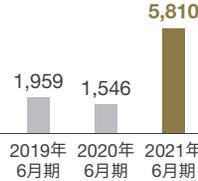
■ 売上高(百万円)

**11,942** 百万円



■ 売上総利益(百万円)

**5,810** 百万円



その他

製品に紐付かない  
貴金属原材料の販売等

■ 売上高

**2,834** 百万円

■ 売上総利益

**1,550** 百万円

# 会社概要 (2021年6月30日現在)

## 会社概要

商号	株式会社フルヤ金属
創業	1951年(昭和26年)3月
設立	1968年(昭和43年)8月22日
資本金	5,445,119千円
従業員数	354人

## 事業内容

- プラチナ・イリジウム等の工業用貴金属製品の製造と販売
- 電子材料・半導体関連製品の製造と販売
- 薄膜部品の製造と販売
- 温度センサーの製造と販売
- 貴金属化合物・化学触媒の製造と販売
- 精製・回収

## 役員

代表取締役社長	古屋 堯民
取締役	丸子 智弘
取締役	大石 一夫
取締役	榊田 裕之
取締役	桑原 秀樹
取締役	田中 扶
取締役	中野 千広
取締役	リチャード・スチュワート
常勤監査役	島崎 一夫
監査役	福嶋 弘榮
監査役	山中 康雄
執行役員	齋藤 将之
執行役員	石黒 好裕
執行役員	中村 拓哉

## 事業所

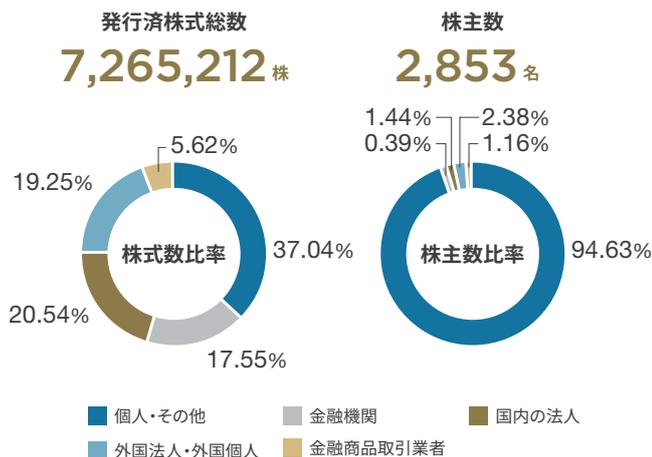
### 国内拠点

**本社**  
東京都豊島区南大塚2-37-5 MSB-21南大塚ビル  
**つくば工場、つくば研究開発センター**  
茨城県筑西市森添島1915 下館第一工業団地  
**土浦工場**  
茨城県土浦市沢辺57-4 東筑波新治工業団地  
**千歳工場**  
北海道千歳市泉沢1007-175

### 連結子会社

**株式会社韓国フルヤメタル**  
ソウル市瑞草区江南大路47ギル13.3階  
(瑞草洞、Dongamビル)  
**株式会社米国フルヤメタル**  
Waumbec Mill, Suite 4012 250 Commercial Street, Manchester, NH 03101 United States  
**株式会社Furuya Eco-Front Technology**  
東京都豊島区南大塚2-37-5南大塚ビル

## 株式の状況



## 大株主一覧

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
田中貴金属工業株式会社	1,416	19.49
古屋 堯民	798	10.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	517	7.12
Sibanye UK Limited	400	5.51
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	308	4.23
株式会社フルヤ金属	297	4.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	259	3.57
SMBC日興証券株式会社	192	2.65
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口)	164	2.26
株式会社三菱UFJ銀行	140	1.92

## 株式メモ (2021年6月30日現在)

事業年度	7月1日～翌年6月30日
期末配当金受領株主確定日	6月30日
中間配当金受領株主確定日	中間配当を行う場合12月31日
定時株主総会	毎年9月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="https://www.furuyametals.co.jp/">https://www.furuyametals.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力欄に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

#### アクセスコード

7826

<https://www.e-kabunushi.com>

kabu@wjm.jpへ空メール(タイトル、本文は無記入)を送信してください。  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。  
アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

e-株主リサーチでご回答いただいた方の中から抽選で簿籍(図書カード500円)を進呈させていただきます。

※本アンケートは、株式会社 a2media (イー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

● アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」  
MAIL : [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)